高速ディジタル伝送サービスご利用の場合

〈長期割引サービス〉

6年間または3年間継続してご利用いただくことを条件に、その期間における基本額（基本回線専用料・分岐回線専用料・分岐料）について一定額を月々割引するお得なサービスです。

	継続して利用する期間	基本額の割引率
6年利用	6年間	11%
3年利用	3年間	5%

（注）但し、ご利用期間中に回線の変更等があった場合は、残余期間に対応する解約金をいただくことがあります。

〈DSU折り返し機能〉

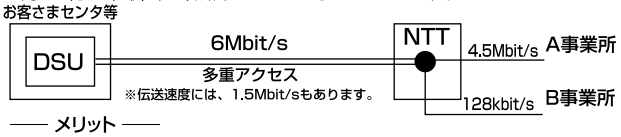
DSU折り返し機能とは、万一専用回線の故障があった場合にNTTからの遠隔試験に対応し、故障の早期回復に役立つ機能です。DSUによっては、同機能を備えているものがあります。

〈インタフェースの種類〉

●Ｉインタフェース：ISDNとユーザ端末間の国際標準に準拠したインタフェース
●Ｙインタフェース：国際的に標準化される前のNTT独自のインタフェース

〈多重アクセス機能〉

同一設置場所に設置される複数のハイ・スーパーディジタル回線(HSD)を1台のDSUにより多重化し、経済的に利用することができるサービスです。



メリット

○ お客さまセンタ側に設置されるDSUは1台でご利用できます。
○ 多重アクセス機能に収容される専用回線の2回線目以降の専用回線に係わる施設設置負担金の支払いは不要で、回線使用料についても減額をします。

（注）多重アクセス機能をご利用する場合は、2回線（同一契約者・共同契約者のものに限る）以上であって、その品目の伝送速度合計が192kbit/s以上となることが必要です。

帯域品目ご利用の場合

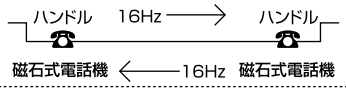
〈線　式〉 使用用途に応じて線式を選択してください。ただし、音楽放送は2線式、3.4kHz(S)・AM放送は4線式となります。

〈信号方式・接続方式〉 下記参照のうえ、信号方式・接続方式の選択をしてください。

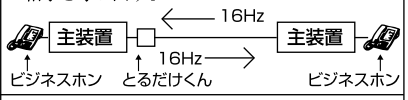
使用する端末とご利用方法を選択してください。

①電話機（ビジネスホン含む）と電話機

□磁石式電話機を利用し、受話器をあげ、ハンドルを回すことにより相手を呼び出す。

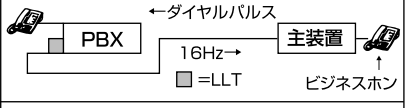


□ビジネスホンの受話器をあげ、局線ボタンを押して相手を呼び出す。



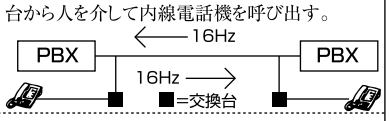
②交換機収容内線電話機と電話機

□受話器をあげ、内線番号を押して相手を呼び出す。

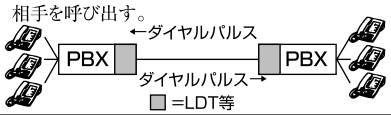


③交換機収容内線電話機と交換機収容内線電話機

□受話器をあげ、相手側交換台を呼び出し、同交換台から人を介して内線電話機を呼び出す。

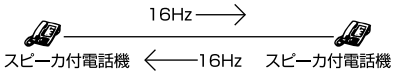


□受話器をあげ、任意の特番+内線番号を押して相手を呼び出す。



④スピーカ付電話機（お客さま設置）とスピーカ付電話機

□受話器をあげ、スピーカにより相手を呼び出す。



接続方式：直通電話方式／内線延長方式／トールダイヤル方式／台間中継方式

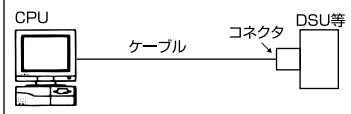
使用する端末は、スピーカ付電話機である → YES → R/D
NO → 分岐のある回線をご利用で、周波数（ビジネスホンの局線ボタン等）により通話先を選択する（※当社装備ではありませんのでご不明の際は端末施工会社にお問い合わせください。） → YES → S/P
NO → インバンドリンガー（帯域内周波数信号装置）を使う（※当社装備ではありませんのでご不明の際は端末施工会社にお問い合わせください。） → YES → I/D
NO → 回線構成は市内である（※ご不明の際はNTT窓口にお問い合わせください。） → YES → L/D
NO → O/D

信号方式	使用する機器等
R/D リングダウン方式	磁石式電話機 NTTレンタル商品　月額180円／台 **とるだけくん** 受話器をあげるだけで相手を呼出します!! NTT売切商品　29,800円／台 （注）とるだけくんは市内のご利用に限ります。
S/P スピーカ呼出方式	スピーカホン等 （この方式を利用する当社商品はございません。）
M/F マルチフリケンシイ方式	ビジネスホン等 （この方式を利用する当社商品はございません。）
I/D インバンドダイヤル方式	ビジネスホン等 （この方式を利用する当社商品はございません。）
L/D ループダイヤル方式	通話品質を確保するための装置
O/D アウトバンドダイヤル方式	通話品質を確保するための装置 ダイヤルパルスを中継するための装置

符号品目ご利用の場合（2400b/s以上の品目をご利用の場合のみ）

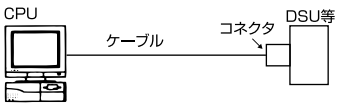
お客さまが設置する端末装置の特性により、ご記入いただく項目ですので、ご不明の際は端末施工会社にお問い合わせください。

同　期



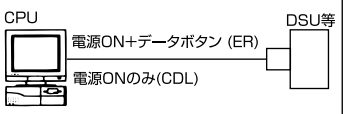
ST1：CPU側で同期をとる方式
ST2：DSU等で同期をとる方式
※ディジタル伝送ご利用の場合は、ST2のみです。
R　T：受信タイミング信号により送信データの同期をとる

インタフェース



Xシリーズ：接続コネクタが15ピン
Vシリーズ：接続コネクタが25ピン
※アナログ伝送ご利用の場合は、Vシリーズのみです。

モ　ー　ド



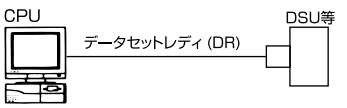
E　R：CPU電源ON後、データボタンを押すことによりデータ伝送が可能となる
CDL：電源を入れると同時にデータ伝送ができる状態となる

〈オプション〉（インタフェースがVシリーズ（ディジタル）でNTTのDSUを設置する場合）

ＲＳ要否

RS要：CPU等に送信要求機能がなく、DSUが常時送信要求機能をONとする必要がある場合
RS否：CPU等に送信要求機能があり、CPU等からDSUをRS制御できる場合

ＤＲ要否



DR要：同期外れや回線断発生時、DSUは自動的にDRをOFFとしますが、本オプションを設定するとCPUのデータボタンがONの間はDSUのDRはOFFとなりません
DR否：上記オプションを設定しない場合

ＣＤＬ要否

CDL要：CPU等に回線接続命令機能がなく、DSUが常時回線接続機能をONの状態とする必要がある場合
CDL否：上記オプションを設定しない場合

NTTからのお願い

3.4kHz・3.4kHz(S)の符号伝送利用時の注意

一般専用サービスの3.4kHz・3.4kHz(S)を符号伝送としてご利用される場合には、当社は、その符号伝送速度に関して保証するものではありませんが、3.4kHzについては、4800ビット／秒（分岐のある専用回線を利用する場合は、2400ビット／秒）を超える符号伝送に利用する場合（標準的な変復調装置を用いた場合とします。）は十分な品質が得られないことがありますので、あらかじめご了承のうえご利用いただきます。なお、3.4kHz(S)の専用サービスは、標準的な変復調装置を用いた場合は、おおむね9600ビット／秒以下の符号伝送が可能なものとします。

LB設置のお願い

LB（自動折り返し終端器）は、万一の故障の際にNTTから試験を行い故障の早期回復に役立てるもので無料で取付けさせていただいております。一般専用サービスをご利用の場合は、LB設置にご協力をお願いいたします。
（符号品目は除く）